

令和3年度 前期学校評価集計結果について

中央市立田富中学校
校長 丹澤 博

はじめに

本校の保護者、生徒、教職員に対して令和3年7月に今年度1回目のアンケートを実施しました。アンケートの結果を考察し、自己評価を行いました。これを今年度後半の学校経営に活かしていきたいと考えます。

1 アンケート項目について

アンケート項目は昨年度見直しを行い、より学校教育目標や学校経営方針が反映されるようにしました。そこで項目は昨年度と変更せず、今年度も年2回実施とし、年度内に取り組むべき内容については年度内に対応していきたいと考えました。

2 評価について

「令和3年度 教職員・生徒・保護者の学校評価平均点」「学校評価計画」「昨年度同期との比較」から考察しました。

(1) 評価平均点から考える「努力したい項目」「改善が必要な項目」

- * 評価は4段階で実施し、平均値を2.5と考えました。
また、評価平均点の数値を次のように判断しました。
 - 3.0以上「概ね良好」
 - 2.5以上3.0未満「努力したい項目」
 - 2.5未満「改善が必要な項目」

(2) 昨年度の前期学校評価との比較

- * 昨年度の前期の質問内容との変化を見ました。

(3) 肯定率から

- * 評価を4(そう思う)と3(ややそう思う)と、肯定的評価をしている割合を肯定率として算出してみました。90%以上を、取り組みの成果が出ている項目、70%以下を、本校の課題として改善が必要な項目として判断しました。

○90%以上を三者(保護者・生徒・教職員)が評価している項目は、昨年同期の7項目と変化はありませんでした。

- ・先生はわかりやすい授業を進める努力をしている
- ・道徳の授業等を通して、人権の尊重や思いやり、道徳的な判断力・実践力を育てている
- ・時間・あいさつ・言葉遣いなどに気をつけ、集団のルールを守り、仲間と協力して生活している
- ・行事や生徒会活動、部活動を通じて、心身ともに成長している
- ・生徒の健康管理や安全に配慮している
- ・正しく生きることについて考えたり、やさしい心・思いやりの心で生活している
- ・学校・学年・学級だよりなど、様々な便りの発行を充実させている

○70%以下の評価となっている項目は三者(保護者・生徒・教職員)とも、ありませんでした。個々にみていくと、肯定率が80%の項目が最も低く、「学校は、生徒が将来の職業や進路について前向きに考えられるように、学年に応じたキャリア教育を行っていると思う」(保護者：昨年同期77%)でした。「キャリアパスポート」を活用し保護者との連携を図っていききたいと思えます。また、特別活動を要としたキャリア教育の全体像を理解いただけるよう努めていきます。

「キャリア教育」について (9月学校だよりより抜粋)

さて、本アンケートの中で「キャリア教育」はわかりにくいというご意見をいただきました。概略を説明します。一般にキャリアと言えば、職業のこと？ 経歴のこと？ など、いろんなイメージがあります。ただ、学校で言う「キャリア」という言葉は、もっと広い意味で使います。「生徒の皆さんが体験するすべての事柄」「すべての経験」「役割を果たすこと」が、その生徒にとってのキャリアという考え方です。もちろん職場体験活動、進路学習もキャリア教育の中心ですが、毎日の授業で、学んだこと・発言したこと・間違えてしまったこと、学級で係を任されたこと、部活動でポジションを任されたこと、青雲祭に情熱を傾けたこと、ボランティア活動をしたことなど、そのすべてがその人の生き方(必ずしも職業に限定したことはありません。)に関わります。この積み重ねの中で自分自身の価値や役割を学ぶことが「キャリア教育」です。

3 三分類（「概ね良好」「努力したい」「改善が必要」）した評価について

（1）総括

三者の総合平均点を比較すると、生徒の評価が最も高く、総合平均が 3.40 でした。（昨年度同期と同値でした。）教員の評価は 3.3（昨年度同期より+0.09）、保護者の評価がやや低く、平均で 3.14（昨年度同期より+0.05）でした。昨年度と比較して上がっている項目が多く見られました。

『生徒は前向きに授業に取り組んでいると思う』『先生は、わかりやすい授業をすすめる努力をしていると思う』『授業では、自分の考えをまとめたり、話し合ったり、発表する場面がある』のいわゆる「主体的・対話的で深い学び」に関する 3 項目は、前年度と比較して大きく向上しました。これは、1 学期中に地域学力向上推進幹を招聘して 3 度にわたる個別指導を受けたことをはじめ、ポイントをしばって「授業づくり」に取り組んだ結果だと言えます。ただ、家庭学習に結びついていないのではないかという意見もあります。「振り返り」の充実や「家庭学習取組表」の有効活用が必要です。一方、前年度と比較して、下がった項目は、1 項目でした。『授業公開、各種たより、学校ホームページ等を充実させ、教育活動の公開を積極的におこなっている』です。改めて各種たよりの充実・定期的発行、ホームページの有効利用を図りたいと考えています。

平均値が低かった項目をみると、保護者の『学校は、生徒が将来の職業や進路について前向きに考えられるように、学年に応じたキャリア教育を行っていると思う』で 2.9（生徒は 3.3）でした。特別活動を要とした全教育活動においてキャリア教育を推進するとともに、「キャリアパスポート」を保護者の皆様にご覧いただく機会をとる確認をしました。また、「キャリア教育」の周知（前述）等に取り組みます。

（2）「概ね良好」（3.0 以上）の評価について

* 保護者、生徒、教職員に共通する 10 項目すべて 3.0 以上の評価でした。

- ・生徒は前向きに授業に取り組んでいる
- ・先生はわかりやすい授業を進める努力をしている
- ・授業では、自分の考えをまとめたり、話し合ったり、発表する場面がある
- ・学校は、時間・あいさつ・言葉づかい等のルールやマナーの大切さ、よりよい生活習慣を指導している
- ・先生は、いろいろな問題を見逃さずに対応し、家庭との連絡を密にするとともに、生徒からの相談に適切に応じてくれる
- ・道徳の授業等を通して、人権の尊重や思いやり、道徳的な判断力・実践力を育てようとしている
- ・行事や生徒会活動、部活動を通して一人ひとりの生徒のよさを発揮させ、体を動かすことの楽しさや体力づくりの大切さを指導している
- ・生徒の健康管理や安全に配慮している
- ・学校行事や生徒会活動、部活動は生徒にとって充実した活動になっている
- ・学校・学年だよりや保健・図書だよりなどの発行を充実させ、PTA の会合でも、学校の取組を知らせている

（3）「努力したい」（2.5 以上 3.0 未満）の評価について

三者がそろって 2.5 以上 3.0 未満の評価をした項目は、ありませんでした

さらに「授業と家庭学習の有機的な結びつき」「学びの大切さ」などを切り口に、生徒とともに「家庭学習の習慣化」「学力向上」について「家庭学習取組表」を柱に全校体制で取り組んでいきます。

（4）「改善が必要」（2.5 未満）

今回のアンケート調査の結果で平均値以下の 2.5 未満の項目はありませんでした。

4 成果と課題について

（1）【成果】今年度前半に取り組んだ事への評価と考察

今年度、中央市の教育の基本「まごころ」、本校校訓「誠実」を踏まえ、『手厚い指導』を全職員で心がけています。

3 つの柱として、①「主体的・対話的で深い学び」の高い次元での実現②家庭学習の習慣化③生徒の声に耳を傾け、生徒にとって「楽しい学校」の実現（悩み相談、いじめ等の早期発見・早期対応を含む）を設定しました。

①については、年度始めの取り組みが有効と考え、地域学力向上推進幹を 3 度にわたって招聘し個別指導を受けました。柱には、「生徒の声（わからない・なぜ）に耳を傾ける。」「考える時間を設定する。（できるだけ考えを書かせる）」「めあて、それに対応するまとめ・振り返りの充実」の 3 つを設定し、この 3 つの柱を中心に取り組みました。授業中の私語などほとんどなく、教師の努力が生徒に伝わっている印象でした。これからの先行き不透明な社会を生き抜くためには、教師主導の詰込みではなく、「自ら問いを立て、

課題に向けて取り組むこと」が重要になります。そして、答えが不明確であっても最善解を求めようとする姿勢を毎回の授業の中で体験させたいと考えます。また、本校先生方から出された意見を参考にして提案した「ノートの使い方」「チョークの使い方」についても共有していきたいと考えています。

②については、授業が充実してきている一方で、まだまだ家庭学習が十分ではないという声を保護者から聞きます。（三者懇談等で）「家庭学習取り組み表」の有効活用について、校内研究で「効果的な使用例」「家庭学習に結びつくコメント」などを収集し、再評価した上で、共有を図る必要があると考えます。早速、9月の校内研から取り組んでいます。また、主体的・対話的で深い学びに向けての取り組みの中で、「振り返り」が課題ではないかと考えています。次につながる「振り返り」について、後期の重点課題にしたいと考えています。

③については、生徒理解のために i-check や生活アンケート等を行い、生徒の実態把握や学級集団について分析を行うことができました。生活アンケートが有効活用できるよう、アンケートから教員と生徒の対話が生まれるよう努めています。また、6月には菊池省三先生を招聘し、教職員が、子どもたちと一緒に学んでいく機会をつくることができました。一人一人の生徒にとっての居場所づくり、不登校生徒を生まない学級づくりへの取り組みを、さらに進めていきたいと考えています。また、今年度も毎月第一月曜日に保護司・更生保護女性会の皆様・生徒会・教職員・PTA生徒指導部が協力して、あいさつ運動に取り組んでいます。「あいさつ」は子どもたちが将来社会に出てからもとても大切なものです。今後様々な機会を通じて、十分な定着をめざしていきたいと思えます。

（その他）

感染症対策等を生徒とともに考え、自他の生命を守る態度の育成を日々行ってきました。今年度も、感染症のために行事が延期に（修学旅行5/13～15の奈良・京都から10/18・19の長野・山梨に変更、「青雲祭」も9/14・15から9/24に変更・短縮）になりました。予定通りの活動はできませんでしたが、かけがえのない中学校生活であることを我々教職員が認識し、感染対策をする中で、生徒たちにできるだけの活動を提供できるよう、2学期以降も努めていきたいと考えています。

（2）後期に重点化する取り組みについて

引き続き①「主体的・対話的で深い学び」の高い次元での実現②家庭学習の習慣化③生徒の声に耳を傾け、生徒にとって「楽しい学校」の実現（悩み相談、いじめ等の早期発見・早期対応を含む）の3つの柱に取り組みます。また、「キャリア教育」がわかりにくいというご意見が多いので、可視化できるように努めます。

特に、「学力向上・家庭学習の習慣化（振り返りの充実）」「学級集団づくりの充実」「キャリア教育の推進」を後期の重点項目とします。

3つの柱についての取り組みを継続していく中、特に、以下の項目について次のことに重点的に取り組みます。

①『学力向上・家庭学習の習慣化』

学力向上は学校教育の根幹であると考えます。2学期以降も、全職員一丸となり、生徒・保護者とともに取り組みたいと考えています。

<具体的な取組>

- ・「授業のめあてを示し、振り返ること」

振り返ることで、自ら、足りなかったこと・努力したいことを見出させ、それを家庭学習に結びつける。肯定的に捉えると、自分の努力でめあてが達成できたので更に努力したい等に結びつけたい。

- ・「家庭学習取り組み表」を充実させ、個に応じた学習指導を推進したい。

【担当】 研究主任、学年研究担当

校内研究を通して、生徒が自ら問いを発し、協働により、課題を解決していく「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業を行い、達成感や充実感の持てる授業実践を目指し研究を進めています。生徒が主体的に授業に取り組むことができるように、授業づくりに引き続き取り組んでいきたいと考えています。

生活アンケートにおいて家庭学習時間の調査を行ったところ、学習時間は二極化しており、家庭学習を継続している生徒が増加している反面、そうでない生徒の割合も増加しており、課題となっています。「家庭学習取り組み表」を通して、個別指導に努めていきます。

②『学級集団づくりの充実』

教師と生徒との信頼関係及び生徒相互のよりよい人間関係がすべての教育活動の土台となることを考え、学級集団づくり・学級経営の充実に取り組んでいます。今学期は学校行事があり、更に充実させるチャンスでもあります。

<具体的な取組>

- ・各種検査の分析 (icheck, 生活アンケート) を学級経営に生かす。
- ・各学級での自己肯定感・自己有用感を高める取り組み (ほめ言葉のシャワー・成長ノート・価値語等) の充実
- ・学校行事や部活動などを活用し、一人一人の生徒が活躍できる場面の設定
- ・道徳教育の推進

[担当] 研究主任, 学年研究担当

<参考資料> icheckの結果 (1回目)

		※全国値+2ポイント以上で					
		※全国値-2ポイント以下で					
【標準スコア】			全国	1年	2年	3年	全校平均
自己認識	◆家族のささえ		50.0	51.4	50.5	52.5	51.4
	◆友だちのささえ		50.0	52.9	51.6	55.6	53.4
	◆先生のささえ		50.0	54.3	54.6	54.0	54.3
	①成功体験と自信		50.0	51.4	50.8	52.8	51.7
	②充実感と向上心		50.0	50.0	49.0	51.8	50.3
	③感動体験		50.0	54.9	53.4	55.6	54.6
	④他者からの評価		50.0	53.3	52.3	53.7	53.1
社会性	⑤規範意識		50.0	53.0	51.1	51.9	52
	⑥思いやり (人間関係構築力)		50.0	51.6	51.0	53.7	52.1
	⑦発信力		50.0	51.7	50.1	52.7	51.5
	◆対話・話し合い						
	⑧社会参画		50.0	51.7	52.1	52.5	52.1
学級環境	◆学級の規範意識		50.0	47.7	48.6	51.6	49.3
	⑨学級の絆		50.0	51.2	52.6	54.1	52.6
	◆いじめのサイン		50.0	50.6	49.9	52.3	51
	◆対人ストレス		50.0	47.6	46.9	48.2	47.6
生活・学習習慣	⑩生活習慣		50.0	52.1	49.8	49.7	50.5
	⑪学習習慣		50.0	51.3	50.0	50.0	50.4
	⑫学習意欲		50.0	51.0	48.9	50.0	50
平均			50.0	51.5	50.7	52.4	51.5

* 全国平均を50としています。

icheckの結果を分析すると全国平均をほとんどの項目で上回りました。ただ、「対人ストレス」の数値はどの学年も下回っています。夏休み中に、対応策を各学年学級で考えました。例えば、ある学級では「青雲祭への想い」を用紙に書かせ全員分を1枚の紙に張り付け配布しながら「こんな考えもあるんだ。」「すごいね。」などの言葉をかけあい、それを何回か繰り返していくという取り組みをしています。「合唱発表会」

があれば同様の取り組みをする予定です。対人ストレスは誰でも感じるものですが、多様な価値観をもつこと・自分の本音を出し合える集団にしていくことで改善していくのではないかと考えます。指導については良い事例を共有し、全校体制で取り組めるような体制を構築したいと考えています。

生徒一人ひとりに自己肯定感や自己有用感を持たせる取り組みを、これからも工夫し、一人ひとりのよさや可能性を生かすように努めていきたいと考えています。

③『キャリア教育の推進』

キャリア教育の全体像がつかみにくいので、「キャリアパスポート」を利活用し、生徒にも保護者にも可視化できるようにしていく。また、学校だよりや学年だよりの中で、キャリア教育の狙うところや取り組みの様子を発信していく。

＜後半の柱となる取り組み＞

- ・親子進路学習会の実施（3年生）
- ・講師を招聘しての職業講話（2年生）
- ・職業インタビュー、職業調べ（1年生）

5 その他

(1) 三者からの回答数

・生徒	415名	回収数	388名	(回収率	93.5%)	理由：欠席・無回答
・保護者	415名	回収数	361名	(回答率	87%)	
・教職員	37名	回答数	37名	(回答率	100%)	

(2) ご意見ご要望について

○感染症対策について

昨年度に引き続き今年度も、新型コロナウイルス感染症により、学校行事の変更や健康管理など、生徒または保護者の方にも多くのご負担をおかけしています。現在も文部科学省や県・市からの指導に基づいた衛生管理マニュアルや感染拡大防止対策により、生徒の学びを最大限保障しながら感染及び拡大のない学校のために努力を続けているところです。

登校時の健康チェックの強化、給食の黙食、授業における生徒間の距離と話し合い活動の工夫などの具体的な方策とともに、生徒自身の意識の高揚をうながしています。ICT機器の活用も準備を進め、授業に取り入れながらその可能性を模索しているところです。

○学校からの情報発信について

コロナ禍により、授業参観や行事、部活動など生徒の活動の様子を直接保護者が目にする機会が減っています。学校・学年・学級通信をはじめ、生徒指導・保健・図書からのお便りなど、学校や生徒の様子、今後の予定などをできるだけお伝えするようにしています。8月の職員会議でも、できるだけこまめに学校の状況を家庭にお伝えすることを確認しました。現時点では動画配信などは個人情報の保護の観点から厳しいですが、写真や生徒の意見などを可能な限り発信したいと思います。また、緊急にお伝えしなくてはならない情報や予定変更等につきましては、学校メールを通じてお知らせをすることを予めご了承ください。

○学校評価について

昨年度より評価の回数を年1回から2回に増やしました。年1回では課題に対する改善が次年度になってしまうことから、その年度内によりよく改善するために変更を行いました。前期(7月)・後期(12月)で行っています。前期では評価しきれない質問項目もありますが、後期に判断をしていただければと思っています。昨年度の学校運営協議会の中でも、年2回にしたことを評価していただきました。生徒・保護者・教職員の評価、第三者評価など、様々な方々のご意見を学校運営に反映させ、よりよい田富中学校の教育活動につなげていきたいと考えています。

○学校の決まり・生徒指導について

校則については、毎年見直しをしています。学校教育目標に沿いながら、その時代や状況に適したものになるよう検討していきます。また生徒自身にも決まりについて考えさせながら、生徒会を中心によりよい学校を作る力を養いたいと考えます。また校則だけではなく、学校生活においてお互いを尊重しながら、全校生徒が気持ちよく過ごすための環境づくりを、教職員と生徒がともに考え作り上げられるよう、より一層努力していきたいと考えています。

○家庭学習について

生徒の主体的な学びのひとつとして、昨年度より家庭での学習の充実を図っている。そのために帰りの会の時間を延長して、家庭に帰ってからの学習の計画づくりを行っている。それをもとに生徒は家庭学習に取り組み、その様子を自主学習ノートとして次の日に提出している。担任や学年の教員で一人ひとりの自主学習ノートをチェックしながら、個々の評価やアドバイスを行えるように進めている。昨年度に比べ、かなりの生徒に定着しつつあるが、やり方や学習内容を含めより充実した活動となるために、きめ細かな指導が必要となる。校内研究会や学年部会などでより一層の研鑽を進めていきたい。

【質問】ワクチン接種について田富中での対応を教えてください。

【回答】あくまでも保護者の考えなので、指導については気を遣っている。接種や副反応が原因で学校に登校できない場合は出停扱いとしている。多くの子供が接種している認識です。

【質問】合唱についてどのように対応するのか教えてください。

【回答】学園祭を短縮した過程で、合唱は延期した。しかし、学園祭に向けて、夏休み中に伴奏や指揮の練習をしていた子もいると思う。何とか実施したい。（12月中旬に実施する予定です。）

【意見】キャリアパスポートについてわからなかったが、実際に見させてもらって理解することができた。

【意見】年間2回学校評価を行うことは大変だと思う。年度内で反省を生かして改善に向けて、取り組むことができることはとてもよいと思う。結果に対する考察からも真摯な姿勢が伝わってくる。

【意見】答えが不明確であっても最善解を求めようとする姿勢を毎回の授業の中で体験させていきたいという姿勢はととても大切なことだと思う。勉強だけでなく、社会で生きていく上で求められる力だと思うので、ぜひ体现させてほしい。

【意見】教育活動の公開自治体の回覧板への学校通信の件

早速実行してくださってありがたい。地域の方の意見として、コロナ禍で学校での生活の様子が理解できて、大人たちが子どもたちの活躍を目にして明るい気持ちになった。市議の方も良い取り組みだと言っていた。ぜひ今後とも継続していただきたい。

【意見】 ホームページだけでなく回覧板で回すことによって地域の目に触れる機会が多くなり良いと思う。

【意見】 アンケートの結果からも学校の取り組みからも信頼できる取り組みをしていることが伝わってきた。生徒のわからないという声に耳を傾ける部分から、わからないことを理解し、改善しようとしている田富中の取り組みは信頼にもつながるとてもよい取り組みだと思う。学校運営する立場でいろいろなことをしていただいていると思う。

【意見】 学力向上について

不登校の数が減ってきたことはとても大きな成果である。学力向上と不登校については田富中の永遠の課題ではある。不登校について改善の兆しが見えてきたことで、学力向上に向けて本格的に取り組む始めることができたことをうれしく思う。学力向上について、改善することは難しいが、まず授業づくりで教員一人一人の力をつける取り組みを1学期中に取り組んだことで成果が出ている。

家庭学習との関連についてタブレットを使って、実現しようとしていることは良いと思うが、家庭環境に応じて難しいことが田富中の特性からあるので、改善に向けて期待したい。

【意見】 小学校の家庭学習について

小学生のうちから、家庭学習の習慣化させなければいけないということは考えているが、まだまだ課題があるのが事実である。田富小では、自主学習ノート30枚のノートを児童が家庭学習に用いて取り組み、校長先生のところにノートを提出しにきて校長先生自身がコメントを書いたり、チェックをしたりしている取り組みをしている。児童によっては、6冊くらい取り組み校長先生のところへ持ってくる子もいる。

【意見】

自主学習ノートを子供同士で共有したりすることによって、子供たちの競争心を掻き立てるような取り組みもいいのではと思う。